

R4 小学部・中学部Ⅱ コース研究「一人一実践」シート

教科等	数学	単元名	色々な方向のリング抜き		
学 年	□年	生徒名	□□□	指導者	□□□
目 標	知・技	長短のある筒や方向の変化がある筒からリングを抜き取ることができる。			
	思・判・表	リングを箱に置いた時に終点を意識し、終わりの合図を教師に示すことができる。			
	学	1方向や2方向のリング抜きに意欲的に取り組もうとしている。			
評 価 規 準 手 だ て な し	知・技	リングを筒の長短や方向の変化に合わせて終点の方向に一人でスムーズに抜くことができたか。	◎		
		リングを筒の長短や方向の変化に合わせて動かし、少ない支援で抜くことができたか。	○		
		リングを動かすことができたか。	△		
	思・判・表	リングが抜き終わったことを自分で判断し、合図を示すことができたか。	◎		
		リングを抜き終わった時に、教師の促しで終わりが分かり、合図を示すことができたか。	○		
		リングが抜き終わったことを教師と一緒に確認することができたか。	△		
	態	自らリング抜きに集中して取り組もうとしている。	◎		
		教師の言葉掛けでリング抜きに集中して取り組もうとしている。	○		
		リング抜きに取り組もうとしている。	△		
<p>㊦ どんな授業にしていけるの？（どんな力をつけるために、どのような授業づくりをするか）</p> <p>○学習内容（課題）に見通しをもち、やるべきことを理解できる力。          ○方向（上下左右）を意識して、身体を動かすことができる力。          ・本児が、課題の意味を理解したり、課題の始まりや終わりを意識したりできるように教師が師範を示したり、教師が手を介助したりする。          ・生徒の実態（手指の動き）に合わせた教材を活用した授業を実践する。</p>					
<p>㊧ 指導と評価の実際① <span style="float: right;">日付：R4年9月21日</span></p>					
◎ 評 価 基 準	知・技	教師と一緒に手指を動かすことで、リングを左右に動かし抜くことができる。	○		
	思・判・表	目の前に箱を提示し、意識させることで、抜いたリングを投げずに箱に入れることができる。	◎		
	態	教師が言葉掛けをすることで、リング抜きに集中して取り組もうとしている。	○		
<p>&lt;生徒の様子&gt;</p> <p>・主として左手を使ってリング抜きの課題に取り組む様子がある。また、リングを左右に動かすこともあるが、ぎこちなさがある。リングを手前に引きながら抜こうとする動きもある。終点を本児から見て右側に設定すると、終点を左側に設定したときよりもスムーズにリングを抜くことができた。両手を使うことは難しい様子が見られた。</p> <p>・リングが抜けたことが終わりであることを自分で判断しているかどうかはわからないが、リングを箱に入れたあと、箱を見せると終わりを意識したのか、手を叩くことはできた。</p>					

㉑ 指導と評価の実際②

日付：R4年9月24日

<生徒の様子>

- ・ 終点を右側に設定した。まず、左手でリングを握り、方向を変えるとき、そのリングを右手で持ち替える動きが見られた。この一連の動きがあると、比較的スムーズに動かすことができるため、定着させたい。
- ・ 途中、リングを手前に引く動きがあると、リングが筒に引っかかってしまう。
- ・ 前回同様、本人にとって右方向に動かす方がスムーズであった。

㉒ 改善の視点（中間）

- ・ 目標設定は適切か？（評価規準にせまっているか）
- ・ 支援を少なくしていき、一人で課題ができるようにさせたい。
- ・ 手立てはどうか？
- ・ 方向を意識できるような手立てが必要である。
- ・ 前方からの介助に加えて、後方からの介助も取り入れていく。

㉓ 指導と評価の実際④

日付：R4年11月15日

<生徒の様子>

- ・ 教師の支援をなくしても（少なくとも）右側に終点を置くと自分一人でスムーズにリングを抜くことができる割合が多くなった。
- ・ リングを横方向に動かすときには、片手のみで動かすほうがスムーズにリングを抜くことができた。
- ・ 手元にある箱を見せても抜いたリングを離さず、リングを箱に入れられないことが多かった。また、教師が何度か箱に入れるよう促すとリングを箱に入れることができたが、終わりの合図（手を叩く）はしないことがあった。

㉔ 指導と評価の実際⑤

日付：R4年11月25日

㉔  
評価  
基準

知・技

リングを終点の方向に一人でスムーズに抜くことができたか。

○

思・判・表

抜いたリングを手元の箱に入れ、終わりの合図を送ることができたか。

○

態

教師が言葉掛けをすることで、リング抜きに集中して取り組もうとしている

○

<生徒の様子>

- ・ 右側に終点を置くと自分一人でスムーズにリングを抜くことができるようになってきた。
- ・ 左側に終点を置くとリングを抜くことが難しい様子がある。
- ・ 自らリングを抜かない方の手で軸を握り、固定する動きが見られるようになってきた。

<指導の成果と課題>

- ・ 始点と終点をはっきりさせる。・ 教材を固定させる工夫を行う。・ 片手でリング抜きができるとうい。
- ・ 教材の大きさやリングの太さを生徒の実態に合わせていく。
- ・ 腕を手前に引いたり、奥に押ししたりする動きを伸ばしていきたい。